

# こみゆに亭

～和光学園便り～

平成28年5月 第89号

発行:小樽市桜4丁目3番1号  
社会福祉法人後志報恩会  
和光学園 広報委員会

## 新年度のごあいさつに代えて

理事長 山崎 忠顯



新年度から関係する法改正がいろいろありますが、難しいやら、その内容がよく分かりません。知りたい情報が手に入りません。というより分かりやすい情報が出せないのではないのかな。そんな訳で法制度は別の機会におくとして、理事長として職員にとって、なにをしなければならぬのかという、大切な新年度の考え方にふれさせていただきます。利用者さんを真ん中にして職員があれこれと悩みながら支援をしていくということは当然ですが、その過程において、みなさんご承知のようにむしろ職員の考え方、感じ方が実際のところ、とてもおおきな課題になります。そのために人材研修等を盛んに行っています。しかし職員が利用者さんの人生にかかわるようなことや、想いや感じ方にまで職員が理解を深めることは、むしろ不可能に近いことです。接し方についてはマニュアル化したほうが良い支援につながるのではないのか、という意見があります。たとえば最近の銀行や病院のようにです。確かにマニュアルの良さを取り入れることは良いことだと思います。まさか施設が銀行や病院と同じようになること望んでいるとは思えません。病院や銀行に学ぶことは多いですが目的が違います。そこで、法人として、職員その人の持っている意見を自由に話せる機会を大切にしたいとの考え方から「こみゆに亭」コミュニケーション面談」を毎年実施しています。まさに「職員を知る」です。今年度は入所施設から職員132名に、施設長、部長クラスの職員が2名構成で、1人ずつ職員の想いや希望、事業所の問題点等を基本は双方向で話し合いました。現在法人職員は正規職、臨職、パート職合わせると約300名ですが、個々の職員の考え方、想いがとても大切なことです。職員の夢や希望もあわせて聞かせていただきたい。

つぎに財務的なことでは地域社会に対して法人の財務情報を公開することが義務化されます。旧くなってきた建物は一定の年月が立つと、建て直しをしなければなりません。2～3月分の人件費の支払いや食料費、公的な借入金返済等を除いて、残額の一部を地域社会に貢献することが望まれます。現在の法人にとってよりよい福祉サービスのためには老朽化した建物ではサービスに限界があります。環境を良くすることは大切なことです。そして「いきいきした組織」はどのように創り上げるのか、一番がおおきな命題です。職員は、一人ひとりではなくチームで仕事することの本当の意味を知らなくては、いきいきした組織とはなりません。しかし利用者さんのことを、本当の気持ちを、チームで知ることが本当に出来るのだろうか。自分自身でも書いていて無責任ですが良く分からないところです。利用者さんがいきいきと感じられる支援を志すことは、職員にはできますし、利用者さんがほっとした笑顔かどうかを知ることは、すぐではなくとも、分かります。(了)

総合相談支援センターHIROBA統括管理者  
小樽後志地域障がい者就業・生活支援センターひろば所長  
小樽地域障がい者相談支援センターさぼーとひろば管理者



相談者のみな様をはじめ、各種関係機関の方々の深いご理解とご教授を賜り、こうして新しい年度を迎えることができましたこと、心から感謝申し上げます。さて、平成27年度の就労支援事業に関しまして、定着支援員の加配効果により、就職後の定着促進が進み、職場実習、就職件数は過去最高となりました。また、地域の支援体制の充実強化のため就労移行支援事業所と連携共有プログラムの推進を図る事や地域の就労支援体制の核となって活性化を図っている各就労支援部会との連絡調整会議など就業支援には欠かせない取り組みとして展開できました。個別な支援では在職者の交流事業も社会参加プログラムと研修カリキュラムを導入し多くの「学びたい」という思いに気づかされ、就業定着に役立てられている事を実感することができました。相談支援事業におきましては、多くの困り感に向き合い、「地域で生きる、活かされる」という障害福祉の幅の広さと奥行きをあらためて実感させられた1年でした。これらは特定相談支援(サービス等利用計画作成、モニタリング)の基礎となる基本相談によるものが多く、年間6,000件の相談のうち8割を占めております。この基本相談では相談支援専門員が一人ひとりの生き様に、たった1人で向き合うことが多く、複雑困難な内容については他職種チームを構成して対応していく等、支援体制を動かす大きなエネルギーを要する支援となります。それゆえ、限られた時間を活用して事務所内で支援の方向性や組織的に対応するべき判断は重要となっており逐一確認して進めていくことが一層求められるようになっております。両事業の充実強化を図るために、今年度の初日に「スタート会議」(HIROBA全スタッフ会議)を開催し「相談者一人一人の歴史(個人史)を受け止め、相談に至る心(気持ち)の動きや痛みの理解に努め、未来志向をもって応援をし続ける覚悟と姿勢で相談者と向き合っていきます。」という支援姿勢をあらためて全員で共有、確認しました。一人ひとりの未来への応援をし続ける地域の相談支援センターとして、今年も休む間もなく、チャレンジが始まったと実感しているところです。

シェアリング和光 小黒 栄



花園町に本部を移し、7度目の春を迎えました。近年、福祉の法律や制度が次々に変化するに伴い、我々もそれに合わせて職員一同、出来るだけの支援を続けています。織物班、学園から日中活動として通われていた高齢の利用者2名が和光学園に移りました。高齢の方は特に体調を崩される方も多く、体調面にも十分配慮をしながら支援を続けております。

私事ではありますが、今年正月、長女が二人目の赤ちゃんを出産、同じ日に近所の姉の嫁ぎ先で高齢でありましたがお姑さんが喉にお餅を詰まらせ、他界しました。なんという巡り合わせでしょう。

私は三年続け、震災の地へ足を運びました。今年で5年、太平洋沿岸を車で南下し、復興状況を見ていきました。町のメイン通りは、復興が順調に進んでいましたが、裏道に入ると、いまだに仮設住宅が立ち並び、多くの方が不自由な暮らしをしており、私が出来る事は仮設の商店で買い物をするのでした。各町村は、人口の減少が続き、休日であっても人通りが少なく、本当の復興はまだ先であると感じ、帰路についております。

パンショップ班は2月末まで順調、平均年齢も31歳と若く、意欲的にパンの製造、販売を続けていましたが、3月初めに感染症が発生、日中活動を保証するという福祉サービスとしての責任を3週間も果たせず、職員一同何とも言えない虚しさを感じました。また、今年度は二名の仲間が加わりました。

この年、全ての人が良い年でありますように、心から祈りながら今できる利用者支援をひとりひとりのニーズに合わせ、進めていきたいと考えております。今年度も宜しくお願い致します。

# ❀ 新年度挨拶 ❀

おも しんじょうりんり けっか せきにりんり  
『想い(心情倫理)』と『結果(責任倫理)』

そうこうしせつちよう さがちろ みつお  
総合施設長 阪口 光男



おも しんじょうりんり けっか せきにりんり ひょうだい みよき かた  
『想い(心情倫理)』と『結果(責任倫理)』の表題を見て読む気がしなくなった方もいるかもしれません。

でも嫌がらずに読んでくだされば・・・。  
春の柔らかな陽射しを感じるこの時に「後悔先に立たず」の想いを強くしています。ここ数年、我が家のカメくんの冬眠からの目覚めについて報告をしています。冬冬では確か、今年の冬眠はガレージで挑戦という内容でした。凍ってしまおうと死んでしまおうので、万全の保温対策をとって対応すると豪語しました。しかし結果は「カメくん(ミケランジェロ)」の水槽が凍ってしまいました。もしかしたらとの淡い期待もむなしく我が家の一員として16年の生涯を終え、天国へと旅立ってしまいました。今になってみると万全と書いてもどこかに《これで大丈夫だろう》という意識が働いていたのも事実だと思います。何であの時、もう少しこうしていれば、あれで困っておけば等々、いろいろなことが頭をかすめます。しかしミケランジェロは二度と還ってきません。新しい試みとして「ガレージで挑戦しようとの想いだけではなく、結果を十分に想定しての行動こそが重要である」ことを学ぶには大きな代償を払うことになってしまいました。ミケランジェロには『申し訳ない』との想いで一杯です。心からゴメンナサイ・・・。

ところで、今の社会・経済・政治にも同じような姿を見ることが出来ます。熱い言葉で想い・理想・理念が語られ、反対意見に耳を傾けずに向転換し、果たして結果を十分に見通しているのだろうかと不安になることさえあります。想い・理想・理念と結果との均衡を欠いていないでしょうか。歴史から学んだ責任をとれるのでしょうか。T県のK町は自殺率が日本一低いそうです。自殺が少ない背景には『生き心地が良い町』の存在があるようです。その秘訣は①多様性を重視する②他者を人物本位で評価する③主体的に社会と係わる④他者に助けることへの抵抗が小さい⑤緩やかに繋がるの五つだといわれます。この町には、一人ひとりの違いを認め受け入れあう精神、『一度はこらえたい』というあやまちを許しあう風土、自分の弱さをさらけ出し弱さを共に担う姿勢があります。別な表現をすれば互いに生かすあうという風土(想い・理想・理念)と互いに責任を担い合うという姿勢の均衡がほど良く保たれているともいえます。2025年には団塊の世代が後期高齢者75歳以上になります。私もその末端にいますが、人口の減少に歯止めがかからないこの時代、高齢期の人・障がいのある人にも働き手としてのラブコールが寄せられています。時代はあらゆる面で格差が広がる一方、多様な人たちが社会で共に働くことを求めてもいます。その基盤は『生き心地が良い』社会でなくてはなりません。共に生きる(心情倫理)を合言葉に多様性を尊重し分かちあいつつ、互いに責任を引き受けあう(責任倫理)ことこそが豊かな社会を創造することにつながります。それは格差がなく『想い』と『結果』が調和している社会でもあり、福祉社会の姿でもあります。歴史・時代は『福祉の心で満たされる社会』が実現することを願っているともいえます。  
今年度も、一人ひとりが『生き心地が良い』日々を送れるように取り組みを進めてまいります。宜しくお願いいたします。

しんねんと あいさつ が  
新年度の挨拶に代えて

わこう ひろきただお  
ウエルサポート和光 広木忠雄



平成27年度はウエルサポート和光の就労移行支援事業から1名の方が一般企業へ就職され、平成18年10月の事業開始からの就労者数は述べ17人(実数16人)となりました。昨年度の一日の平均利用者数は定員15名に対し9.7人で、お支払いした作業工賃は職場実習手当を含み月額平均12,381円でした。就労継続支援B型事業では一日の平均利用者数は定員20名に対し23.8人で、お支払いした作業工賃は職場実習手当を含み月額平均23,400円でした。また8名の方が小樽市内5カ所の一般企業で職場実習を継続されています。  
地域活動支援センターの昨年度の一日の平均利用者数は定員規模15名に対し14人でした。また利用者さんの期待に添えて日常的・継続的に下請け作業の取り入れに努め、支払われた作業工賃は月平均1人あたり5,940円でした。福祉ホームでは定員10名のところ現在9名(1階女性4名プラス管理人1名、2階男性5名)の方が利用されています。6名の方が和光グループの日中活動を利用しており内2名が一般企業での実習、3名の方が一般就労を元気に継続されています。長橋寮では市内9カ所の居住地に42名(定員43名)が地域生活をされています。就労者14名、一般企業実習者7名、和光グループ日中活動利用者21名です。女性の入居者は3ヶ所のグループホームに8名です。  
今年度におきましてもご利用いただいている皆様のご心身の安心・安全を第一に、充実した日中活動、就労支援、生活支援の提供に尽力いたします。

しんねんと むかえて  
新年度を迎えて

わこうがくえん しせつちよう かわけのゆき  
和光学園 施設長 川瀬紀幸



しんねんと むかえ へいせい ねんとじぎょうけいかく ぶききなはしら ひどつ にっちゅうかつどうしえんだいせい いちふさいへん がつ にち じっし  
新年度を迎え、平成28年度事業計画の大きな柱の一つでもある日中活動支援体制の一部再編を4月1日より実施し、新たな組織体系で事業運営を始めています。再編の具体的な内容は、和光学園の「ガラス班」を、今年3月末をもって廃止し、日常生活面でのリハビリテーション等を中心に日中活動を行うグループ【のどか】を新設しました。【ガラス班】は、平成2年に北海道より当法人が移管を受け、新【和光学園】としての事業開始に合わせて、地元【小樽】の特産品でもあるガラス製造作業を行う班として導入されました。作業の導入に際しては、職員が小樽市内のガラス工房にて約1年間の修業をさせていただき、吹きガラス等の基礎的な技術を習得し、作業が開始されました。以来25年間、障がい福祉関係施設では、全国的にも他に類を見ない画期的な作業として注目され、またガラス作業体験や製品販売等をとおして交流を行うなど、地元の皆さんにも親しまれてきました。当園にとっては、【看板的存在】としてこれまで作業班を運営してきましたが、ここ数年、ガラス製造過程で作業に関わる利用者さんが減少し、また後継職員の育成の困難さや財務状況が厳しい中でランニングコストの問題等々、存続を維持する上で多くの課題を抱えていました。一方、事業所全体としても利用者さんの高齢化や疾病等が原因で、常時身体的介護や見守り等を必要とする利用者さんが増加したことにより、従前の体制では、多様化する個別のニーズに対応する支援の提供が難しく、新たな日中活動グループの設置の必要性がありました。このような経緯から、今年度より、まさに「断腸の思い」で【ガラス班】を廃止し、新たに【のどか】の運営を開始することとなりました。これにより、9名のガラス班所属の利用者さんは、園芸、クラフト、木工、ウイリング和光製パン班とそれぞれ既存の日中活動グループに分散して異動しましたが、現在は、皆さん元気に作業をさせていただいており、ほっとしているところです。比較的スムーズに移行できましたのも、利用者の皆さんはじめ、保護者・ご家族のみなさん、また関係者の皆さんのご理解とご協力のおかげと心より感謝と御礼を申し上げます。  
今年度は、上記の日中活動の再編等の他に、生活介護事業の適正定員への変更(76名⇒70名)や地域生活移行促進に係る施設整備等についても事業計画として掲げています。今後とも事業計画の遂行及び利用者の皆さんの社会参加の促進と権利擁護に向けて職員一丸となって事業運営を推進してまいりますので、ご指導、ご助言等賜りますようよろしくお願い申し上げます。

べつ あ さ な  
「別」は有っても「差」は無し

ふくし じぎょうしゃ しよくひんせいぞうじぎょうしゃ はざま おも  
福祉サービス事業所と食品製造事業者との狭間で思うこと

わこう ながい ひでき  
ウイリング和光 永井 英樹



日ごろより当事業所の運営には、温かいご理解とご支援をいただき、厚くお礼を申し上げます。新年度のウイリング和光は、新しい利用者さん2名をお迎えし、また職員にも多少の異動がありましたが、にぎやかな中にもスムーズにスタートすることができました。  
さて昨年度の和光グループは、まさに「ノロウイルス」と向き合った一年でした。そのような中、当事業所も延べ数週間わたり食品製造を休止するにいたり、あらためてご関係の皆さまには、おわびとお礼を申し上げなければなりません。特に年度末の感染拡大では、開業以来はじめて当事業所の製造従事者(利用者さんと職員)の中にも検査陽性者が含まれていたということで、「食品製造事業者」としては危機感をもって対応するために、「福祉サービス事業所」としては断腸の思いで、検査陽性の利用者さんと職員を別プログラムで活動していただくということがありました。  
ところで私と福祉の支援者(だけではないと思いますが)は、人を何らかのレッテル(今回の場合は検査が陽性が陰性か)で「別」けることに強い抵抗感をいだくように思います。少なくとも私は、今回はじめて苦痛に近い違和感を覚え、この感覚が何に由来するのかと考えたとき、このようなことに思い至りました。一般の食品製造事業者では当たり前に行われていることが、福祉サービス事業所では困難と痛みをともなうものであることを学びました。もちろん当事業所には、利用者さんを受け入れ続けなければならないことと同程度に、安全な食品を製造しお届けし続けなければならないという2つのミッションが課せられている以上、今後とも別プログラムで利用者さんを支援せざるを得ない場面もあるかと思いますが、たとえそうなったとしても、その「別々」のプログラムの間において、満足度に極力「差」が生じないよう備えなければならぬと考えています。  
折しも障害者差別解消法のスタートに当たり、さまざまなことが脳裏に去来する平成28年度の初頭となりました。



こんかい か い め えいがじょうえいかい がつ か おこ  
今回3回目となる映画上映会が、3月5日に行  
なわれました。当日は天気にも恵まれ、町内会・  
GH利用者さん含め、44名の方が来館されまし  
た。今年度は「山本慈昭 望郷の鐘 満蒙開拓団  
の落日」を上映しました。終了後、ご婦人の方々  
から「本当によい映画でした、感動して涙しまし  
た。来年も楽しみにしています。」等感想を  
述べてくださる方もおられました。ご協力、  
ご尽力してくださいました町内会、地域の皆様にか  
心よりお礼申し上げます。

へいせい ねん がつ にち にち しょう しゃとうき たいかい わさびちやう  
平成28年2月14日(日)に障がい者冬季スポーツ大会が和寒町で  
行なわれました。今年度は前日に雨が降り、大会当日は気温が下が  
り、スタート地点は濡れたウェア、ゴーグル等が凍りつくほどの  
寒さとなり、滑走面はアイスバーと最悪のコンディションでの  
開催。  
Aクラス500mでは妹尾さんスタート直後に転倒しコースアウ  
ト。Bクラス400mでは花田さん3  
位。山田大輔さん4位。Cクラス200  
mでは山田晃弘さんもスタート直後  
に転倒しコースアウト。次回の  
開催地は今金町を予定されております。



ひがえりりやう  
わかば日帰り旅行



2月18日にわかばの皆で日帰り旅行に行きました！午前中は小樽水族館に  
行き、アザラシやイルカのショーを鑑賞しました。利用者の皆さんもショー  
を楽しんで観ていました。お昼ごはんは水族館内のレストランに入り、  
皆さんそれぞれ好きな物を美味しく召し上がられておりました。午後は余市  
はまなす温泉に行き、温泉にゆっくり浸かり、入浴後にお菓子やジュースを  
食べ、リラックスした時間を過ごしていました。  
今年の日帰り旅行も事故や怪我もなく終え、利用者の皆さんからも  
「楽しかった」、「また日帰り旅行に行きたい」と温かい言葉を頂き、とて  
もうれしい気持ちになりました。また次回の日帰り旅行では利用者の皆さん  
と楽しい思い出を共有したいと思っております。

もりの  
(森野)

★仁木町ゆっくり歩こうスキー大会★

2がつ28にち にち おおえ おこなわれた にきちやう ある たいかい さんか  
2月28日(日)に大江で行われた、仁木町ゆっくり歩こうスキー大会に参加しまし  
た。  
天気にも恵まれた中で、大江の景色を見たり、地域の人たちに「頑張ってるね」等の声掛け  
を頂いたり地域の人々との触れ合いもありました。その中で、怪我等なく楽しくかん  
じきを参加することができました。大会後、豚汁を食べたり、抽選会では、参加した  
皆さんにメダル又はタオルが当たるなど、いい思い出になったと思っております。(工藤)



★編集後記★

あたたかく さむく きおんさ はげ ひ つづ からだ しあいた ことし あたり  
暖かくなったり寒くなったり気温差が激しい日が続いておりますがお体ご自愛下さい。今年も新しいメンバーでこみゆ  
に亭をお届けしていきます。宜しく願い致します。編集委員：岡島・徳田・山形・牧田・渡邊・安芸

# 新しいスタッフの紹介

新たに入られた職員をご紹介します。今後とも宜しくお願いいたします。

熊木友香（和光学園栄養士）



3月より管理栄養士として勤務させていただきます。3月より管理栄養士として勤務させていただきます。

栄養士としては病院が長かったのですが、障がい者支援施設での勤務は初めてなので、早く仕事を覚えたいと思っています。仕事柄か？食べることが大好きなので、自分自身も太らないようにしなければなりません。行事等で、皆さんと一緒にすることがこれからあると思いますので、どうぞよろしくお願いいたし

横尾夢華（和光学園クラフト班）



このたび採用になりました横尾夢華と申します。4月1日からクラフト班に配属となり、仕事はまだまだ不慣れですが、中学から6年間部活で鍛えられたガッツと持ち前の笑顔で、乗り越えていこうと思います。ちなみに部活はバスケットボール部でした。まだまだ未熟な私ですが、皆さんと関わる中で色々と勉強させてもらいながら、一生懸命頑張っていきますのでよろしくお願い致します。

橋本陽子（ウイリング和光配食班）



3月から、ウイリング和光、配食サービスの栄養士で勤務しております橋本陽子（はしもとようこ）ともうします。

好きなことは、野球観戦とおいしいパンを食べることです。みなさんによるこんでもらえるような、栄養のあるおいしいお弁当を考えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

伊藤里美（和光学園木工班）



3月1日より勤務させて頂いております伊藤里美です。前職は花屋だったので、何の知識も経験も無く初めての事ばかりで悪戦苦闘の毎日ですが、利用者さんとのコミュニケーションを図りながら、利用者さんの生活に寄り添い皆さんに笑顔になってもらえるように取り組みたいと思っています。宜しくお願いします。

伊藤愛梨（さくら学園）



昨年9月から産休代替職員の保育士として働かせていただき、4月からは改めて児童指導員として働かせていただくことになりました伊藤愛梨です。趣味は野球観戦です。特に北海道日本ハムファイターズを応援しており、休日は札幌ドームにいます。

職員や保護者の方との連携を大切にし、お子さんにも保護者の方にも信頼される職員になりたいです。これからもよろしくお願い致します。

吉岡繁樹（和光学園木工班）



昨年9月から木工班でお世話になることになりました、吉岡繁樹と申します。

2年前に民間企業を定年退職し、縁あって第二の人生を和光学園で勤めさせていただくことになりました。趣味は40歳代から始めた少林寺拳法で、現在も週二回練習会に参加しております。また、30歳から始めたゴルフもそのひとつです。これから何年勤めることが出来るかわかりませんが、楽しく仕事をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

## 新しいスタッフの紹介

新たに入られた職員をご紹介します。今後とも宜しくお願いいたします。

### 田附伸治（さくら学園）



はじめまして、田附伸治と申します。  
中央バスを60歳で定年退職し、その後、オリーブ幼稚園に7年近くお世話になりました。小さな子供達を相手にする仕事は、大変ご苦労なことだと思いつつながら送迎バスを運転しておりました。趣味は家庭菜園とナツメロです。我が家には、猫4匹とミニチュアダックスのミッキーくんがいます。  
縁あって、さくら学園さんに、お世話になる事になりましたが多少の経験を生かして、事故や体にかかることを避け、子供達に好かれるドライバーになれたら幸いです。

### 後藤敏重（さくら学園）



先月23日より勤務させていただきます。小樽生まれの小樽育ちです。  
趣味は編み物ですが、最近あまりする時間がないので出来ないのが残念です。  
最近のお気に入りには大人の塗り絵で好きな絵の本を見つけると買って休みの日に塗っています。まだまだ慣れないことがたくさんありますが、他の先生方にご指導いただきながら、子どもたちと楽しく過ごして行きたいと思っております。今後ともよろしくお祈り致します。

## 新しい利用者さんの紹介

この春4月から、わかばに新しい利用者さんが加わりました。名前は「笹田 将司」さんです。乗り物が大好きで、学園バスに乗るのを毎日楽しみにしながら登園されています。とても穏やかな人柄なので、わかばはもちろん、学園の皆様ともすぐに打ち解けることが出来ると思います。今後とも、よろしくお祈り致します。

4月1日から13日まで園芸班に長枝尚輝さんが作業体験に来てくださいました。  
畑作業ではその若さと元気で園芸班にフレッシュな風を吹かせてくれました。とても元気で色々な事に興味を持って作業をしてくれる長枝さんと一緒に皆さんも笑顔で作業をされておりました。今後ともよろしくお祈り致します。

配食サービス班では4月より、斉藤花奈さんが新たなメンバーとして加わりました。花奈さんは昨年、実習にて配食サービス班の作業を経験されており、花奈さんはとても明るく元気があり、より一層配食サービス班も明るくなった様に感じられます。これからどうぞよろしくお祈り致します。

この春、4月よりパンショップに新しい仲間が2名加わりました。  
名前は「増田愛さん」「田中慎吾さん」、増田さんは二階でパンの袋詰め、田中さんは一階で成形を行っています。増田さん、田中さんは以前パンショップでの実習経験もあり、すぐに作業に入られ、活躍しております。これからもどうぞよろしくお祈り致します。